



特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会
2011年度 事業計画(案)

■はじめに

人と人とのつながりの希薄化が顕著に表れる事象が相次ぐ中、日本社会のこれからの方向性はますます混沌とした様相を呈している。日々顕在化する社会問題から10年後の地域社会の姿を想像すると、これからの「市民参加」や「協働」は単なる掛け声に留まることでは許されず、社会の中での真のつながりを紡ぎ直すことは喫緊の課題である。現場での実効性や実質性を求めて、「信頼に基づいた社会関係」（ソーシャルキャピタル）を創出していく実践的な力を育み、市民活動潜在層（無関心、未参加者）を巻き込みながら市民参加と協働のための基盤づくりに向けた新たな社会を構築する必要性はますます高まってきている。また、ここ数年の「新しい公共」を広げ、基盤整備を進めるための政策と全国各地の動きにも注目しなければならないだろう。

このような中で、社会でのつながりを紡ぎ出す専門的な担い手の創出をさらに推し進めるために、JVCAでは2010年度から「ボランティアコーディネーション力3級検定」に引き続き「2級検定」をスタートさせた。同時に2011年度からの1級検定と「JVCA認定ボランティアコーディネーターシステム」導入の具体的プランの検討を精力的に重ねてきている。

そして2011年。JVCAの次のステージへの橋渡しとなる第2期中期ビジョン（2011-2013）を策定する。創立から10年間に蓄積してきた総力を結集し、JVCAのミッションである「ボランティアコーディネーターの専門性と社会的認知の向上」をめざしていく。

■将来を見据えた方向付けと基盤強化の年 ～2011 年度事業計画のポイント

2011 年度に J V C A は創立 10 周年を迎える。これまで積み上げ、培ってきた総力を結集する年となる。特に、J V C A のミッションである「ボランティアコーディネーターの専門性と社会的認知の向上」への取り組みについては、第 1 期中期ビジョンで掲げたボランティアコーディネーション力検定と J V C A 認定ボランティアコーディネーターシステムを結実することが今年度の最大の目標となる。

そして、その次なる目標となる第 2 期中期ビジョンを策定し、これからの J V C A の方向性を明確にする。特に、創立 10 周年を迎えるにあたって、ボランティアコーディネーションの推進拠点整備のためのファンドレイジングを意識した様々なプロジェクトを展開していく。また、「ボランティアコーディネーター基本指針」などのツールを活かして、検定・認定の仕組みと連動させながら“ボランティアコーディネーションについての理解”を図っていく。

さらに、会員本位の視点に立脚した具体的な事業を形にし、活動に継続的にコミットしてもらえらるための仕組みのさらなる検討を進めつつ、事業展開と組織運営を推進する体制の整備・充実に取り組む。とりわけ、検定・認定の継続性を担保するためには、講師陣や運営体制、協力関係などの層に厚みをつけるとともに、必要な財源確保に取り組み、検定システム事業の安定的な運営を支える事務局体制の強化を図っていく。

これらの状況をふまえ、2011 年度は J V C A が事業の柱としている 4 つの重点とそれを支える推進体制づくりの課題に沿って、以下の取り組みを中心に事業展開および組織運営を進めていくこととする。

重点1 多様な領域で活動するボランティアコーディネーターのネットワークの確立

- ①メールリストなどを活用したボランティアならびにボランティアコーディネーションに関する情報・意見交換の促進
⇒WEB媒体を活用したPRや情報提供を通じてボランティアコーディネーター間のコミュニケーションの場を提供する。
- ②ボランティアコーディネーション力3級・2級検定合格者への積極的な入会促進
⇒ボランティアコーディネーション力3級検定に合格した会員以外のボランティアコーディネーターに対して、積極的に入会の案内をする。2級検定実施の際にもJVCA入会案内を配付し、呼びかける。

重点2 ボランティアコーディネーターの専門性の向上にむけた取り組み

- ①「ボランティアコーディネーション力1級検定」「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システムの完成
⇒2012年から実施予定の上記システムについて、その詳細を検討し、確立する。
- ②「ボランティアコーディネーター倫理綱領」の起草
⇒専門職としての自覚と遵守すべき倫理を表すために、ボランティアコーディネーター倫理綱領案を作成する。

重点3 ボランティアコーディネーターの専門職としての社会的認知度を高めるための取り組み

- ①「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムの開発
⇒職業としてボランティアコーディネーターの実践を行っている人材に対して、その実践力の向上をはかり、業務の成果を多角的に評価することを通じて、協会としての認定を行う「JVCA 認定ボランティアコーディネーター」システムを検討し、確立する。

重点4 ボランティアコーディネーションの普及

- ①「ボランティアコーディネーション力3級検定・2級検定」の実施
⇒2009年度から開始した3級検定、2級検定を継続的に実施する。
- ②「ボランティアコーディネーター基本指針」を活用した普及啓発の促進
⇒CoCoサロンや読書会、研修会で積極的に活用することを通して、ボランティアやボランティアコーディネーションについての理解をはかる。

推進体制 事業を推進する体制の充実

上記の重点事業を実施するために運営および事務局体制を充実し、財源確保に努める。

① JVCA中期ビジョン2011－2013の策定と推進体制づくり

⇒中期ビジョン2006－2008の評価をふまえて、新中期ビジョンを策定し、重点となる事業、関連する事業を精力的かつ計画的に推進する体制をつくる。

○第2期中期ビジョン達成に向けての3年間の具体的アクション(案)

- i) ボランティアコーディネーション力検定の受講者拡大を通じ、ボランティアコーディネーションの社会への浸透を図る
- ii) あらゆる組織・場面におけるボランティアコーディネーションの実態把握と組織評価へ着手する
- iii) 「無縁社会」化を克服するためのつながりをつくるボランティアコーディネーション力をもった人材の育成とネットワークをつくる

② JVCA10周年記念事業の実施

⇒ボランティアコーディネーション推進拠点整備のための寄付金集めプロジェクトを行う。

③JVCA検定・研修事業を支える講師陣、運営体制の充実

⇒講師人材の幅が広がるよう計画的な講師の養成、共催に備えた運営体制の充実を行う。

③ 事務局機能の強化

⇒事業の拡大に伴い、担当するスタッフを増強し、事務所スペースの拡大を進める。

■ 1 事業の推進

(1) 全国ボランティアコーディネーター研究集会の開催

- ①「全国ボランティアコーディネーター研究集会2011」(京都)の開催及び評価
龍谷大学との共催でJVCA10周年にあたる研究集会を開催する。
2010年度より現地のコーディネーター等によって設置している実行委員会においてプログラムを企画し、実施する。
テーマ:
期 日:2011年 2月26日(土)～2月27日(日)
会 場:龍谷大学 深草キャンパス
- ②「全国ボランティアコーディネーター研究集会2012」(開催地:東京)の準備

(2) 研修の開催および研修企画の支援

- ①ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の開催 2回・4ヵ所(東京2回、大阪2回)
- ②ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の共催 4回(共催団体)
- ③ボランティアコーディネーション力2級検定直前研修の開催 2回(東京・大阪)
- ④各種研修セミナーの開催
 - ・実務者向け:ボランティアコーディネーター基礎研修 3回
(関東 2回、関西 1回)
 - ・実務者向け:ボランティアコーディネーター・ステップアップ研修 1回(関東)
 - ・ボランティアと向き合うことの多いあなたのためのファシリテーション講座 3回
(関東・関西ほか)
- ⑤東京都教育委員会・東京学芸大学協力事業:都立高校教育サポーター養成事業の実施
講座名「高校生と福祉をつなぐコーディネーション」
2011年1月27日・2月2日・14日 研修時間: 時間 於: 中野サンプラザ
- ⑥研修への講師派遣と講座等の企画支援
 - ・研修への講師派遣を希望する団体に対し、開催の目的やねらい、テーマ等を調整したうえで、JVCAの理事・役員等を紹介する
 - ・相談者(団体)のニーズに即した研修メニューやプログラムを開発し、実施する。

(3) ボランティアコーディネーション力検定の実施

- ①ボランティアコーディネーション力3級検定試験の実施 2回(主催)
(第1回:東京・大阪/第2回:東京・大阪/共催4回)
- ②ボランティアコーディネーション力2級検定試験の実施 2回(第1回:東京/第2回:大阪)
- ③ボランティアコーディネーション力検定試験委員会の運営
 - ・各級(3級・2級)ごとのチームの設置とチームミーティングの開催

・試験問題の作成、試験監督、採点・評価

再掲 ④ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修の開催 2回・4ヵ所 4回・共催

〃 ⑤ボランティアコーディネーション力2級検定直前研修の開催 2回(東京・大阪)

⑥『市民社会の創造とボランティアコーディネーション(ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト)』の改訂(発行は有限会社筒井書房)

⑦『ボランティアコーディネーション力2級検定サブテキスト』の改訂・発行

⑧ボランティアコーディネーション力3級・2級検定の講師養成

⑨ボランティアコーディネーション力1級検定の受験者(受講者)募集開始

(4) 情報の収集及び提供活動の推進

① メールマガジン(会員向け)の発行(月1回)

② JVCAリーフレットの改訂

③ ホームページの充実

④ ボランティアコーディネーションに関する情報収集

・ボランティアコーディネーション関連の文献データベースのホームページ上での公開

⑤ 雑誌・新聞などへの寄稿 など

・ボランティアコーディネーション力3級・2級・1級検定開始に合わせて、各分野の業界紙、広報紙などへの記事を執筆する。

(5) 広報紙および出版物の発行

① ニュースレターの発行

『Co★Co★Net』の発行 年3回(発行月:4月、8月、12月)

②『市民社会の創造とボランティアコーディネーション(ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト)』の改訂(発行は有限会社筒井書房)

③ボランティアコーディネーション力2級検定サブテキスト(加除式)の改訂・発行

(6) 調査・研究活動の推進

①「ボランティアコーディネーション力検定」システム(1級)の確立

1級直前研修カリキュラムを作成し、各領域・分野における専門的な知識・スキルをもった人材の協力を得て研修プログラムを開発する。2012年度実施に向けて受験者(受講者)の募集を始める。

②「JVCA認定ボランティアコーディネーター」システムの開発

2012年度の本格実施にむけての検討、準備を行う。

③上記2つを実施するために「検定・認定システム化検討委員会」を継続する

④ボランティアコーディネーター倫理綱領案の作成

ボランティアコーディネーターの専門職としての自覚と遵守すべき倫理を表すために、ボランティアコーディネーター倫理綱領を起草する。

⑤『ボランティアコーディネーター白書2010ー2012』の編集

昨年度に引き続き『ボランティアコーディネーター白書2010ー2012』(大阪ボランティア協会発行)を編集する。

(7) 相談への対応

①会員メーリングリストによる会員相互の相談助言活動を促進する。

悩み相談、意見発信、問題提起、情報交換など、会員メーリングリストに寄せられる相談を通して会員同士のコミュニケーションを促進する。

②頻度の高い問合せについて、ホームページに掲載する。

事務局に入る頻度の高い相談や問合せへの対応について紹介する。

(8) ネットワーク推進事業

①CoCoサロンの開催・運営支援

・会員サービスの一環として、会員相互の交流を深める場(機会)として、会員が自主的に開催するCoCoサロンの新規立ち上げおよび運営を支援する

②CoCoアカデミーの開催

地元で研修を開催したい会員の多様なニーズに応じて、地元会員との協働で研修を開催する。

③国内外の関係団体との連携

国内外の関係団体とボランティアコーディネーションの普及促進に関連する事業に後援ならびに協力し、連携を深める。

(9) アドボカシー活動の展開

①日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)の認知向上

日本ボランティアコーディネーター協会の存在と市民社会を創造するためには「ボランティアコーディネーターの専門的な役割を確立する」ことが重要であるという当団体のミッションを広くアピールする。WEBサイトによる広報も充実させる。

②ボランティアコーディネーションの普及啓発

・「ボランティアコーディネーター基本指針」ブックレットの販売促進及び主催研修や講師派遣先での普及啓発を行う。

・『ボランティアコーディネーター基本指針』活用マニュアルを上記のブックレットに挟みこみ、各地域、各職場などにおいて活用してもらう。

③『ご存知ですか？ボランティアコーディネーター』ポスターの配布

ボランティアコーディネーターの社会的な認知を高めるためのポスターを会員に配布し、活用を呼びかける。引き続きホームページにも掲載し、ダウンロードできるようにする。

④社会情勢に応じたアドボカシー活動を展開する。

介護支援ボランティア制度の実施の動向を把握し、必要に応じて課題提起などを行う。

■ 2 組織運営と財政強化

(1) 通常総会 2011年 2月26日、京都にて開催する。

(2) 理事会 4回開催(2月、4月、7月、12月の予定)

(3) 委員会

①運営委員会 月1回、12回開催する。

開催予定地:東京・大阪など

合宿1回(関西)

②各種委員会の運営

各種事業の進行管理を徹底し、事業推進と組織運営への会員参加を進めるため、理事、運営委員、一般会員の参加で以下の委員会を推進する。

i) 広報普及委員会 …会員新規拡大、ホームページ充実、ボランティアコーディネーター基本指針の普及など、JVCAのPR活動全般

ii) 会員サービス委員会 …CoCoサロンやココアカデミーの開催支援、Co☆Co☆Net編集、会員メーリングリストの活性化など、会員継続支援や会員に向けた広報

iii) 研修開発委員会 …実務者向け基礎研修等の実施、専門委員会との協働

iv) JVCC企画委員会 …全国ボランティアコーディネーター研究集会2011・2012の企画、今後のあり方検討

v) 財政委員会 …財政シミュレーションと具体的な財源強化対策

③専門委員会の設置、運営

i) 検定・認定システム化検討委員会(継続)

ii) 検定試験委員会(継続)

④プロジェクトチームの運営

各種委員会の他に、必要に応じて各種チームを構成し、事業の進行を図る。

i) 研修実施プロジェクトチーム

ii) ホームページメンテナンス・タスクチーム

iii) ボランティアコーディネーター倫理綱領作成チーム

iv) 中期ビジョン2011-2013策定チーム

v) JVCA創立10周年記念事業検討・準備チーム

(4) 創立10周年記念事業ならびにパーティーの実施

i) 創立10周年記念パーティーの開催(2011年2月26日・JVCC2011終了後)

ii) ボランティアコーディネーション推進拠点整備のための寄付金集め

iii) 創立10周年記念の感謝を伝えるグッズの作成

(5) 会員拡大および会員サービスの充実

① 会員拡大に関する取り組み

- ・多様な分野においてボランティアコーディネーターの社会的認知を広げ、JVCAの事業や運営への参加を拡大し、会員組織としての組織構成を強化する。
- ・ボランティアコーディネーション力3級検定合格者に対し、JVCC2011開催と入会の案内を行う。
- ・ボランティアコーディネーション力2級検定合格者に入会を促す。

② 会員サービスの見直しとサービスの拡充

会員のニーズを的確に把握し、会員がJVCAにコミットする機会拡大とJVCAをより身近な存在として感じられるサービスとして、CoCoサロンを主軸とした地域や分野における会員相互の意見・情報交換とボランティアコーディネーションの普及・啓発の場づくりを拡充する。

③ 会員継続支援サービスの充実

準会員から正会員への移行を促すような「会員継続支援サービス」を充実し、会員の定着と会費未納者を減らすための工夫を行なう。「会員旨みツール」を活用し、会員にニーズに応じたJVCAへの参加や活用方法を知ってもらう。

(6) 事務局運営の充実

① 事務局スタッフの強化

- ・事業が増加するため、事業推進のアルバイトスタッフを増員する。

② 事務局担当理事の設置(継続)

事務局担当理事によるスーパービジョンを定期的に行う。

③ 事務所スペースの拡大・移転先の検討

検定に関わる保存書類の増加と、事務所スタッフの増員に伴い、手狭になった事務所スペースを拡大するために移転先の物件を探し、準備を行う。

(7) 財源の確保と財政運営

① 会費収入の拡大

会員特典(JVCC・研修・セミナー参加費割引など)を積極的に周知し会員の勧誘を図る。

② 事業収益の拡大

検定受験者を安定的に確保する。

③ その他財源の拡大(助成金、委託事業など)

JVCAの事業目的に合った助成金や委託事業などに積極的に応募する。

(8) 認定NPO法人格取得に向けた取り組み

① 法制度の研究

② 3,000円以上の寄付者の確保